

株式会社ジェイコム北関東 熊谷・深谷局 2018 年度放送番組審議会 議事録

2018 年度の放送番組審議会は 2018 年 3 月 19 日(火)に開催された。

<放送番組審議会委員>

ご出席 (五十音順)

岡 部 美 雪 様	栗 原 和 江 様
杉 本 公 明 様	田 島 清 様
出 井 計 多 様	長 谷 川 泉 様
横 山 晋 一 様	

事業者側から現況報告及びJ:COMチャンネルの取り組みにつき報告があった。
その後、委員の互選と事務局からの推薦により、議長に長谷川委員が就任した。

番組の審議(審議番組の DVD を視聴し、ご意見をいただいた)

■審議番組『デイリーニュース熊谷・深谷』について

(議長)

各委員よりご意見をいただきたい。

(委員)

地元のニュースであることから私たちもその情報を活用していきたい。

(委員)

コンセプトが「ど・ろーかる」ということで地上波放送局とは違った地域性や話題の温かさを感じる。

(委員)

ニュースの話題が多彩であるが取材情報はどのように収集しているのか？

(事業者)

普段からのお付き合いの中で、行政や民間からのイベント情報の提供を基本として突発的な情報を組み入れている。当社で情報を収集するものが5割、一般からの情報が5割である。意外と一般の方からの情報提供が多い。

(委員)

地元の団体紹介はとても良い情報である。市民へ有効多様な情報提供を PR でき、視聴者にとってもわかりやすく情報を受け取ることができる。

(事業者)

地元の若い方がいろんな活動をされているので活動だけでなく「人」の紹介を含めて当社も連携、協力させていただいている。

(委員)

視聴者による投稿、発信が身近に感じる。情報の内容は私たちも活用させていただいている。七夕のロックバンドの企画や街の活動に協力している方への励みにもなる。今後もさらに深く、濃い内容の番組となるよう期待している。

(委員)

私も同番組の取材を受けたことがあり、番組を観た方から声をかけられたことがある。番組を通じて人と人との繋がりが広がっていくと良い。サービスが始まった深谷地域の方に観てもらいたい番組である。

(事業者)

番組のキャスターも熊谷に住んでいるため、実際に取材の現場に出向いて直に皆さんからの意見を聞き番組に活かしている。

(議長)

地域密着の内容は良いが、インタビューは意見がわかりやすくなるよう編集した方が良い。

(委員)

制作体制が大変かと思うが、デイリーニュースを午前中に1本、夕方に1本、それぞれ生放送ができると良い。

(事業者)

熊谷・深谷局では制作体制が整っていないためまだ先のことになるが、J:COM では一部の局で朝のデイリーニュースを放送しており、埼玉県内でもこの4月より試験的に朝のデイリーニュースの放送を開始予定である。その状況をみて今後拡大の検討をしていく。

■審議番組『熊谷うちわ祭生中継』について

(議長)

次に熊谷うちわ祭生中継についてご意見をいただきたい。

(委員)

国道の交通を止めて祭りを開催することはあまりなく、熊谷の文化だと思う。山車は建造物であり文化財でもある。とても良い祭りであり、地域の文化を広く伝えたいため、J:COM で全国放送されることを希望する。

(議長)

熊谷以外にお住まいの方にも祭りの意味や内容がわかりやすく構成されている。

(委員)

どうしても祭りの表舞台が主になってしまうのは仕方がないが、祭りは裏側で支えている人が大勢いる。そういった方にスポットを当てて舞台の裏側についても紹介を希望する。

(事業者)

当社も祭りを裏で支えている方や思いを生中継とは別に取材している。山車が会場に集まる祭りのメインの叩きあいでは長尺のVTRを入れられないため、昼の特番で紹介をしている。今後ご協力やアドバイスをいただきたい。

(委員)

5時間の生中継をするという理由とその反響は？

(事業者)

以前は祭りの最終日の夜の2時間しか放送していなかったが、番組としての挑戦と「この日の熊谷は祭り一色」という意気込み、そして皆さんに一日祭りを感じていただくため、埼玉県域で昼の2時間からスタートして、その後、熊谷・深谷エリアのみで1時間、そして県域でメインの2時間を放送とした。

祭りのメインは会場も大変込み合い、叩きあいも近くで観れないので自宅にてテレビで祭りを楽しむ方もいる。

今後は取材を重ねたドキュメンタリーにも力を入れていきたい。

■審議番組『深谷ねぎまつり 2019 生中継』について

(議長)

次に深谷ねぎまつり2019生中継についてご意見をいただきたい。

(委員)

この祭りは行政ではなく市民が立ち上げた祭りである。J:COMも祭りに参加していたが現地ではごみ拾いまでしていた。市民主体のイベントは予算も少なく、運営する人も少ないと思うので今後ご協力をいただきたい。

番組は午前中に生中継して午後会場に来ていただくようなフレッシュな内容であった。

今後も市民主体のイベントの中継を希望する。

(事業者)

ねぎまつりの中継は今回初めてであり、来年も実施されると思うので今回の中継を活かして我々も勉強してより良い番組にしたい。

(委員)

イベントがどこで開催されているのかの周知が少ない。画面の隅に深谷ねぎまつり生中継と表示されているが、会場の地図などの表示が時々あった方が良い。

また字幕スーパーが少なく感じた。お年寄りや音声がよく聞こえない方もいるので字幕スー

パーがあると助かる。

(事業者)

会場の地図の表記は番組の冒頭に表示したが、番組を観て会場に来てくださいと案内しているのに冒頭以降、会場の案内がないのは落ち度であり反省点である。

会話の字幕スーパーは生中継での表示は難しいので、別の方法を考えたい。

(委員)

熊谷や深谷には地域に根付いた文化や良い素材がある。ピックアップされない地域の歴史や文化施設を巡る番組があったら良い。

(議長)

映像には外向けの発信と内側に向けた発信があると思うが、意外と地元の人でも知らないことは沢山あり、足元を見直すためにも地域の文化や歴史を地元の人に紹介する番組を望む。これこそ地上波局では制作できない地元のケーブルテレビならではのコンテンツだと思う。

(委員)

長時間の番組ではなく、ポイントを持った5分の番組でも良い。地域の方が自分の地域を知るということは大切である。今年、熊谷ではラグビーワールドカップの開催があり、来年にはオリンピックが開催される。いろんな方が熊谷に訪れるので自らが地域を知るという意味でも地域を紹介する番組を望む。

また、学生をターゲットにした番組、若い人の考えや視点を活かした番組はいかがだろうか。

■全体を通してのご意見

(議長)

その他の番組を含め多様なご意見をいただきたい。

(委員)

スポンサー番組を制作する場合の費用は？

(事業者)

多様なケースがあり、都度お見積りをさせていただいているが、地上波局での制作・放送よりは安価である。

(委員)

J:COM 熊谷・深谷プレゼンツという冠番組があるが、J:COM がスポンサーになっているのか？

(事業者)

J:COM が協力(サポート)させていただいている番組である。

(委員)

特に今年はラグビーイベントが多いが J:COM は参加しているのか？

(事業者)

気運醸成活動の一つとして埼玉県から委託を受けワールドカップの開催成功に向け、多面的に協力している。

(委員)

ケーブルテレビには視聴率といった指針はあるのか？

(事業者)

リサーチ会社が実施している視聴率というのはないが、独自にデータ入手しているものはある。

(議長)

熊谷市全エリアにおける加入が可能なカバー率は？

(事業者)

約 30%である。

閉会(事務局)

予定の議事は終了した。これにて 2018 年度放送番組審議会を閉会する。

以上